



R3 年度小学校英語授業づくりプロジェクト (第 1 回目研修)

私の授業実践 ⑧ ～和水町立菊水小学校 北村 雅子 先生～

6 年 単元名「Let's go to Italy.」

○単元を通した学習課題

相手に自分がすすめる国について興味を持ってもらうために、どんなことができるのか観光地や有名な食べ物などについて伝え合おう。

○本時の目標 (6/8)

自分が交流したい国を決めるために、交流したい国についてできること等を分かりやすく紹介したり、友達の発表を、メモを取りながら聞いたりできる。

指導者自身が英語でコミュニケーションを図る楽しさを示すモデルとなる

今回の授業でとても印象的だったことの一つに、子供たちのコミュニケーションを図る態度があげられます。先生や友達が発言すると、毎回、「Oh!」「Me, too.」「I like ~!」など、実に豊かに反応を返します。しかも、それはとても自然な反応で、子供たちが英語でのコミュニケーションを心底楽しんでいることが伝わってくるものでした。

なぜ、子供たちは英語で自然なコミュニケーションができていいのか…。北村先生の授業を見て納得しました。

例えば、Small Talk の場面。トピックは「食べたいもの」です。「I like cheese. It's delicious. So I want to eat pizza.」北村先生は、実に美味しそうな表情で好きな食べ物を紹介されます。さらに、ALT の田中先生とともに、「Who likes cheese?」、「What food do you want to eat?」と子供たちを会話に巻き込み、子供たちの返答にも、「Oh! You like chicken!」など、表情豊かに反応しながら会話を続けていられました。北村先生は、言語活動を通した指導においても「子供たちとのコミュニケーションを楽しみながら」という視点を大切にしておられます。毎時間の授業を通して、このような本物のコミュニケーションに触れる経験をするからこそ、子供たちの豊かにコミュニケーションを図る姿が育まれているのだと感じました。北村先生の授業から、指導者自身が子供たちとのコミュニケーションを楽しむ姿勢をもって授業を進めることの大切さを学びました。



デモンストレーションの様子



会話を継続するための表現を掲示

1 時間の授業の中心が言語活動となっているか?

今回の授業研究会では、外国語の授業で何かを調べたりする活動を、授業内でどのくらい行こうかが話題になりました。例えば、実際におすすめの国を発表する活動を単元終末の言語活動に設定した場合、おすすめしたい国の食べ物や建物などについて事前に調べ、ポスターを作成したりすることがあります。内容にもよりますが、調べる活動自体は小学校外国語教育において定義された言語活動とは言えません。外国語の授業では、その中心が言語活動となるようにすることが重要ですので、授業時間の多くが調べる活動となることは避けなければならないと考えます。したがって、授業においては、子供たちが自分の伝えたいことを主体的に調べるための動機付けを図ったり、その手順等について見通しを持たせたりする指導に留め、家庭学習等を活用して子供たちが自主的に調べたり作成したりできるようにしたいものです。また、その際には、子供たちの過度な負担とならないように内容を精選することも必要です。